

○議長(五十嵐健一郎君)

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。〔17番 伊藤文輝君登壇〕

○17番(伊藤文博君)

新政会、伊藤です。

一般質問通告書に従い、次の2点について質問を行います。

1点目は、地域医療問題、医師確保に関わる環境整備について、2点目は、地域づくり(活性化)と広報活動についてであります。提案的な考え方で質問いたしますので、建設的な答弁をお願いいたします。

1点目、地域医療問題、医師確保に関わる環境整備。

全国的に厳しい状況を迎えている地域医療問題は、本市にとっても重要な行政課題となっております。

医師の確保が重要であることはこれまでと変わりありませんが、大学に医師の派遣をお願いすることだけでは解決出来ない問題だと言われております。

医師確保には、医師が住む糸魚川市の生活環境整備も重要であることは周知の事実であります。各部署において、「安心のまちづくり」に欠かせない医師確保のポイントは、行政課題全般にわたることを認識して縦割り行政の弊害を排除し、各部課横断的に「まちづくり」を推進していかなければなりません。

次の点について、今後の計画を伺います。

(1)教育環境の整備。

(2)生活環境の整備。

住みやすさ(安心、利便、快適、富裕、住居)の観点から。

(3)医師が働きがいのある労働環境の整備。

(4)女性医師が継続的に働ける環境の整備と女性医師の活躍の促進。

2点目、地域づくり(活性化)と広報活動について。

1問目の質問とも関連しますが、地域づくり、地域活性化は糸魚川市にとっても重要な行政課題です。市民参加、市民参画、市民協働の気運を高めながら、活性化を図っていかなければなりません。

(1)どのようにその気運を高めるのか、そして、ハード的なまちづくり(都市整備)を含めて、どのような活性化策を計画しているのか。

(2) 以下の他市町本寸で行われている活性策、広報策の取り組みについてのこれまでの当市における検討状況と今後の取り組みはどうか。

①地域活性化事業

地域活性化のためにその地域の住民税の内、一定割合による金額を上限とする、地域自治組織やコミュニティによる地域活性化事業への補助金制度の導入。

②シニアパワー活用策

「シニア人材バンク」の創設。

シニア世代の開業支援策。

再登板支援事業。

(3) U、Iターン促進策の中心は「PR」「就業サポート」「住まいの確保」です。そのうちのPRについて、U、Iターン対象者に対する地域情報の発信。これは、地域の自治会主導での定住促進活動を奨励し、そのうち、通信事業を支援する形で補助を行い、市の広報、情報も同時に発信してもらう仕組みを作るものであります。

(4) 転出者を「住民0B」に登録し、糸魚川市の魅力のPRを依頼する。これは任意の登録制度で行うものであります。

(5) 市外で活躍している市出身者、そのうち5名程度が妥当かと思われませんが、PR大使に任命する。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目、2点目の教育と生活環境の整備につきましては、総合計画に掲げた重点施策を推進し、教育環境や生活環境の向上を図ってまいりたいと考えており、医師確保のための特別な環境といたしましてはとらえておりません。

3点目の医師の労働環境の整備につきましては、魅力ある執務環境は医師を確保する上で重要なこととあります。地域医療確保の観点とあわせ、昨年度は産婦人科病棟の整備、今年度は循環器医療施設の整備に対して、市から財政的支援をいたしてるところであります。

今後とも医師の働きがいのある環境整備の支援に取り組んでまいります。

4点目の女性医師に関する件につきましては、年々、女性医師の数が増加しておりますので、女性医師が継続して働きやすい環境づくりに向けて医療関係機関の意見を伺いながら、市として何ができるか研究してまいりたいと考えております。

2番目の地域づくりと広報活動についての1点目、市民参加、市民参画、市民協働の気運を高めながら活性化を推進するためには、何よりも広報活動が大切であると考えております。地域づくりや地域活性化に効果が期待できる各種支援事業の周知につきましては、新年度予算編成前に制度の内容紹介や希望調書を市内の全区長に郵送し、周知に努めております。また、その成果の一部を広報紙で紹介するとともに、毎年開催されます地域づくりフォーラムにおいて事例を紹介し、PRに努めております。

ハード的なまちづくりにつきましては、ワークショップや懇談会などにより市民がまちづくりへの関心を高め、理解を深めていけるよう市民と協働で進めてまいります。

2点目の1つ目、住民税の一定割合を地域活性化事業に充当することにつきましては、当市ではまちづくりパワーアップ事業補助金など、既に地域活性化事業を実施いたしております。現在のところ、導入する考えはありません。

2つ目のシニアパワーの活用策につきましては、通学路の防犯パトロールや生涯学習人材バンクなどにおいて、シニア世代の皆様が多く活躍をいただいております。シニア人材バンクにつきましては、シルバー人材センターが存在いたしておりますことから、新たに創設する考えはありません。

開業支援策につきましては、現在ある創業支援資金利子補給制度を活用し、支援してまいります。再登板支援事業につきましては、阿賀野市が実施しているものでありますが、当市においても同種の取り組みが芽生えておりますので、調査、検討してまいります。

今後は状況に応じた見直しを行いながら、シニア世代の皆様が生き生きと社会に参画いただくよう支援してまいりたいと考えております。

3つ目のU、Iターン者に対する情報発信につきましては、Uターン等を促進するためハローワーク糸魚川の協力を得て求人説明会、面談会を実施いたしております。このPRをホームページや広報紙での周知に加えて、Uターン登録者などにダイレクトメールなどを送付し、情報発信に努めてまいります。

また、県と上越3市で構成する雇用環境整備財団からUターン等登録者へ、地域の求人やイベントなどの情報誌を毎月送付いたしておりますが、市ではこの冊子に掲載する情報の提供にも努めてまいります。

4つ目の住民OBの登録制度と5つ目の市出身者のPR大使につきましては、現に東京糸魚川会、関西糸魚川会や奴奈川ネットワーク、県人会、白馬会など、既に出身者の方々からご協力をいただいております。今後さらにその輪を広げてまいりたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答

弁もごございますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

1点目の教育環境の整備についてですが、今、市長の答弁では総合計画により推進していく、医師確保にかかわる独自の問題ではないというお話でしたが、もちろんそのとおりなんです。

私がここで言いたいのは、それぞれの施策というのが絡み合っている中で、各課横断的な取り組みが必要であろうということによって、より1つ1つの施策に厚みが増していくというようなことだと考えています。

昨年9月議会の一般質問で、教育の地域間競争ということについて質問しました。その中で、教育環境の格差が、糸魚川市の諸事情に与える影響という観点で本格的に検討したことがあるかという質問に対して、当時の野本総務企画部長は、総合計画策定の段階で教育の問題も出ていたと。

この地域には結構、単身赴任者も多いということで、その原因について教育という問題も出ていた。ただ、それを突き詰めて突っ込んだ議論というのは、なかなかできにくい状況だったというふうに答えています。

教育環境ということが、医師の確保の問題に影響があると思う。そういう意味で今突っ込んだ議論はできていないということだったが、やっていく必要があるんじゃないかという質問に対して、部長は、確かにそういったことについて広く議論をしていく必要があると思っていますというふうに答えております。

教育委員会では、教育環境の整備が他の行政課題に波及するという点について、その後、議論したことがありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

月岡学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長- 月岡茂久君登壇〕

○教育委員会学校教育課長(月岡茂久君)

お答えします。

市内での横の連携ということについては、まだ十分ではございませんが、私たちは県事務所、市の教育委員会と、この縦の系列がございまして、この件について十分要望して、環境を整えていると

ころでございまして。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

本間総務企画部長。〔総務企画部長 本間政一君登壇〕

○総務企画部長(本間政一君)

姫川病院の破綻のいろんな問題が出てきておりますが、特に医師の確保については、以前から当地域の重要な課題でありまして、やはりその中ではいろんな病院、あるいは大学に行かれると教育環境というものが、非常に誘致の中ではウェートが重いんですということはお聞きをしています。

そんなことから、やっぱり市全体での教育をどうするかというものを考える必要があるんじゃないかということ、市長から先般、指示をいただいております、やはり他市の例を見たり、あるいは糸魚川でどういう形が一番実態に合っているのか。先ほど市全体で考えると言いましたが、個々の問題を少し深めていかないと、この問題の中に入っていけないのかなというふうに思っております。聞くところによればやはり医師が住みやすい問題、住宅の問題、あるいは教育の問題、いろんなことを出されておりますので、特に、教育については行政でやれるべきことがあるんじゃないかということで、市長からも指示をいただいておりますので、そのことをまた教育委員会、あるいは関係部内の中で論議をしたいということで今のところありますので、もう少し時間をいただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文樺君)

今ほど、まだこれからのことで横の連携は十分じゃないということですが、今後各部・課で横の連携をしっかりとってもらって、話し合っていていただきたいと思います。

中高一貫校の問題ですが、これについて今のところ糸魚川市で設置される予定はないということ、先般の質問でも答弁いただいておりますが、中高一貫校だけが教育環境を整えるための施策ではないですね。しかし、それは現在考えられる非常に有効な方法であります。それが実現できない、またはしない、または実現する方向で働きかけていくにしても、時間がかかるということであれば、ほかに教育環境を整えるための糸魚川市独自の方策というのを、教育現場と連携してとらなければいけないということになります。

中高一貫校は実現できにくいけど、それに負けない、またはそれに匹敵するような施策というのが、具体的に糸魚川市として何か考えられておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

月岡学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 月岡茂久君登壇〕

○教育委員会学校教育課長(月岡茂久君)

私たちは市内のどの学校にも子供たちが通って、そこで確かな学力、豊かな心、健やかな心身、それを育成するために質の高い教育を行っていききたいということで、今行っていることは、そのかなめとなる教職員の資質、指導力の向上が最優先であると思ひまして、これについて重点的に取り組んでおります。

先ほど県とのつながりという話もさせていただきました。今年度、積極的に加配を要望し、理科支援員、それから特別支援教育学生ボランティア、それも受け入れをしております。さらに生徒指導加配、少人数加配もお願いしたところ、年度の途中ではありますが、多数配置いただきました。

このように課題等も伝えて、糸魚川市の教育のために、子供たちのために、きめ細やかな指導を行っていききたいと、こう思っております。

まだ、そのほかに委託事業を積極的に取り入れ、市の課題、あわせて各学校の課題解決のために取り組んでいききたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

先ほど部長が言われた、今後全市的に教育環境というものについて取り組んでいくという方向性を理解した上で、今の現状とこれからの課題を明らかにしていくような形の話なものですから、さっきの答えをわかってなくて質問しているんじゃないですよ、了解しておいてください。

中高一貫校というのが一つ脚光を浴びてますが、今のお話でそれにかかわれる方策をしていくと。そうしますと結果として、今の方策をしていくことで中高一貫校に負けただけの結果を、確実に得ていかれるという見込みを持っているかどうかということが、重要になってくるわけですよ。

結果主義という立場で考えてください。そういうふう考えたときに、糸魚川市は教育環境がよいという状況を今の施策で達成できるかどうかということ。もし、まだちょっと弱いとなると、今後課題としてどのようなものがあるかということについて、お考えをお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

月岡学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長 月岡茂久君登壇〕

○教育委員会学校教育課長(月岡茂久君)

教育環境は十分であるとは言いがたいですが、平成19年度、今年度から県の派遣指導主事、専門性の高い指導主事を常駐させていただいております。これは教育アドバイザー的な仕事を担っておりますので、その分はカバーできるかと思えます。

あと課題は、やはり小学校から中学校へ上がるところ、小中連携のあり方、また、常に指摘されております中学校と高校の連携のあり方、これについては来年度より高校との授業交流会を進めるという段階に入ってまいりました。それをぜひ実現していきたいと思えます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

今後、教育環境が整ってもっとよくなって、今が悪いとかということじゃなくて、もっとよくするという観点で考えたときに、それが達成できなければ、よりよい教育環境を求める者は糸魚川市には住めない、住まない。例えば医師はなかなか来ない、市内への転勤者は、みな単身赴任で来てしまうというようなことになってきますから、非常に重要な行政課題だと思えます。先ほども部長の答弁にありましたように、積極的に取り組んでいただきたいと思えます。

生活環境の整備ですが、先日の斉藤議員の質問とも関連しますが、会社四季報などを出版している東洋経済新報社が、本年8月27日現在の全国の783市、これは782市プラス東京区部全体ということですが、その住みよさランキングを発表しています。住みよさランキングは、安心度、利便性、快適度、富裕度、住居水準充実度の5つの観点から16指標を採用し、それぞれ平均値を50とする偏差値を算出して、その単純平均を指数化したものであります。

住みよさ総合では、糸魚川市は偏差値50.14で、全国783市中361位、個別の観点でいきますと、安心度は328位、利便度は247位へ快適度は554位、富裕度は581位、住居水準充実度は46位となっています。県内では柏崎がトップで155位、以下、長岡、村上、小千谷、新潟と続いて、糸魚川市は県内20市のうち11番目ということになっています。

このような情報を入手して分析し、諸計画に反映していくというような作業は重要だと思えますが、いろんなデータがあると思えますが、この情報を入手していたかどうか。それで入手していたとすれば、その情報をどのように分析して、今後の総合計画実施計画に生かすべく、話し合われているかについてお答えください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

織田企画財政課長。〔総務企画部次長企画財政課長 織田義夫君登壇〕

○総務企画部次長企画財政課長(織田義夫君)

お答えを申し上げます。

東洋経済新報社の都市データパックじゃないかなというふうに考えておりますけども、今年度の方はまだ入手しませんでしたけども、一昨年、昨年とやっております、一昨年は306番、昨年は417番ということで、今、伊藤議員の方から今年度ですか361番ということなんで、その時々のはそれぞれ入手をしまして、分析をしているところであります。

○17番(伊藤文博君)

話し合われたかどうかということについて、分析したの、結果として。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

織田企画財政課長。〔総務企画部次長企画財政課長 織田義夫君登壇〕

○総務企画部次長企画財政課長(織田義夫君)

お答えを申し上げます。

情報として、こういうのがあるということで私らも承知はしてますけども、じゃあこれをある程度分析して、じゃあ具体的にどうこうというところには、まだいってないというところあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

地域間競争ということがよく言われます。これは当然、もう既に始まっているわけですし、そういう観点に立ったとき医師の確保の問題についても、どの地方都市も同じ問題を抱えていますよね。その中で、競争意識を持つ、て対処していかなければいけないという問題だと思います。そういう意味では、こういう指標がある程度参考になって、今後の対策について糸魚川市が競争力を高めていくということが必要だと思いますが、これについてはまた活性化のところ、改めて聞いていきたいというふうに思います。

医師の働きがいのある医療環境の問題に移りますが、過去には糸魚川総合病院院長が救命救急センター、姫川病院院長が循環器センターの開設を提唱していたように、現在の研修医制度の下で、医師の働きがいを充足するような医療環境の整備も重要だというふうに言われています。

ニワトリが先か卵が先かというような議論になってしまいますが、医療環境を整えなければ医師は来ない、医療環境を整えても医師が来なければどうしようもないというような2つの議論が、相反した形であると思います。

医師派遣を大学にお願いをしてきて、なかなか難しい状況の中で今の状況を迎えているわけですが、どのような環境が医師にとって望ましいかということは、医師側との十分な意見交換によって、把握していかなければいけないということだと思います。

推進会議のような代表的立場の人と話し合う機会も、これは重要だと思いますが、実際に糸魚川市の医療現場への派遣対象となる医師たち、またその卵たちから、意見を聞く機会が重要になってくるだろうと思いますが、富山大学や新潟大学の若手医師やその学生から、そのような機会を持ったことがあるかどうか。または、それにかわる手法をとったことがありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

荻野健康増進課長。〔市民生活部次長健康増進課長 荻野 修君登壇〕

○市民生活部次長健康増進課長(荻野 修君)

具体的には、糸魚川総合病院の医師の皆さんから集まっただいて、いろいろなご意見を伺うということはいたしておりますし、近いうちにもまた行ってまいりたいと思います。これについては市長からも聞いてもらうことが大事かと思って、そのようにさせていただいております。

また、富山大学に参りまして、附属病院の院長ということだけでなく、各大学の教授、准教授からお話をいただくということで、例えば災害救急の教授がいる、そういう方のところに出向いて、もちろん救急医として派遣もいただいていることもありますし、今後の糸魚川市の救急医療のあり方についてご指導いただくと、そういう立場で連携をさせていただいております。

そういう中で、そういう方とつながりを持ちながら、これからの医師が来やすい環境というものを考えていかなきゃならんと考えております。

失礼いたしました。私どもは富山大学とのつながりは強うございますけども、新潟大学の関係がありまして、そちらの教授のところに出向きまして、そちらの教授のところから学生が集まっただいて教授からも説明し、あるいは学生からもいろんな意見が出るという形の中で、医師確保についてご協力をいただくというふうな形を教授みふずからもとっていただいたし、私どもも話し合いを持たせていただいた、そういう経過もございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

新潟大学に市長が訪れたときに学生が集まってきて、いろんな話を聞いたということは委員会の席でお聞きしました。こういう手法を継続的に、集まるということが継続的にできるかどうかわかりませんが、何らかの形で、やはりこれから糸魚川市に来ることになる可能性のある人たちの意見を聞いて、今後の医療環境の整備に役立てていくということを、ぜひ継続して行っていただきたいなというふうに思います。

女性医師が継続的に働ける環境のお話ですが、先ほど田原議員が質問されてますので簡単にしますが、先ほど課長が言いましたように、医師の国家試験・合格者の3割は女性だということで、実際に今、医療に携わっていない女性医師がかなりいるということが、この間のタウンミーティングでも言われてたわけですが、この糸魚川市の周辺の状況を含めて、現状ほどのように把握されてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

小林市民生活部長。〔市民生活部長 小林清書君登壇〕

○市民生活部長(小林清吾君)

お答えいたします。

糸魚川市周辺の女性医師の状況ということなんですけれども、正直申しまして、私どもは糸魚川市周辺の女性医師の数ということでは把握しておりません。

ただ、一般的には、やはり結婚、あるいは出産ということを機会に医療の現場から離れて、その復帰が、なかなか今度はできなくなってくるというようなことは全国的に言われておりますので、その辺を市と糸魚川総合病院で、どのような具体的な方策はということになりますけれども、ただそれはやはり県全体の中で、どういう方策がいいのか、どういう支援のあり方がいいのか、これは国でも女性医師について職場復帰と言いましょか、再度、医療現場に出てきていただくための方策、どういう方策がいいかというのは検討されておりますけれども、それを今度は県全体の中で、各県が実情に合ったやり方で検討して、今後につなげていくべきものかと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

荻野健康増進課長。〔市民生活部次長健康増進課長 荻野 修君登壇〕

○市民生活部次長健康増進課長(荻野 修君)

大変失礼いたしました。

私どもがつかんでいるところでは、糸魚川総合病院につきましては女性常勤医師は4名いらっしゃいます。また診療科によって、開業医でも女性の医師はおられます。これは個別でございますので、具体的な人数は差し控えさせていただきますが、病院では4名ということでお答えさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

今、医療に携わっている方がそうだということですね。ですから、そうじゃない方がどうなのかということで聞いたんで、データがないんならいいです。

実際、糸魚川市が女性医師の働く環境で非常にトップクラスと言いますか、先進的になることができれば、非常に医師の確保について有利なことになるだろうというふうに思いますし、先ほどの田原実議員の質問でも、推進会議の報告書案の課題への対応はこれからだということがありましたので、ぜひとも今後この部分についても突っ込んだ検討をして、できれば糸魚川市がその点で先進的になるというような方向性も視野に入れた中で、そうでなきやならんとは言いませんが、視野に入れた中で検討していただきたいなと思います。

その推進会議の案に対して、地域医療計画のようなものが糸魚川市に必要なと思いますが、これについての今後の予定というのは、どういうふうになっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

荻野健康増進課長。〔市民生活部次長健康増進課長 荻野 修君登壇〕

○市民生活部次長健康増進課長(荻野 修君)

糸魚川地域の医療体制整備推進会議の方向づけと言いますか、報告がまとまりましたので、これを受けて市としての地域医療の整備に関する考え方を示すものと言いますか、計画とまでは言えないかもしれませんが、考え方を示すものを作成したいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

それはいつごろまでにという考え方ですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

荻野健康増進課長。〔市民生活部次長健康増進課長 荻野 修君登壇〕

○市民生活部次長健康増進課長(荻野 修君)

でき得れば年度内に、ある程度はまとめたいとは思っておりますが、これはまたいろんな関係者の意向も踏まえますので、そのとおりになるかはあれですが、目標としては、そういうふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

地域活性化の方に移ります。

市民参加の気運を高めることの重要性はもちろんでありますが、総合計画の中にも第6章、自立と協働のまちづくりの中で、まちづくりへの市民参加の促進でうたわれています。

市民参加のまちづくり、また、その市民参加そのものに対する今後の課題は、何と考えているでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

本間総務企画部長。〔総務企画部長 本間政一君登壇〕

○総務企画部長(本間政一君)

市民参画はいろいろテーマは広いわけではありますが、やはり行政が一方的にやるんじゃなくて、やっぱり地域、あるいは周りの環境等と一緒に一体となってやるべきことが、一番の課題になるのかなというふうな感じを持っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

具体的に課題を上げてもらいたかったんですが、1つには、アクセス問題というような言い方をする課題があると思います。地域住民が実際に参加の機会を活用できるシステムが必要だと。単に参加の機会を提供するだけでは、仕事の忙しい人々や育児にかかりきりというような人たちが、この機会を利用することは事実上困難。

その第1には、物理的障害を排除する。これは公共交通の整備だとか、社会福祉サービスの向上を図るといようなことで、高齢者や障害者に対するアクセスを向上させるということですね。

第2に、多様な性格を持つ人が、より自分に適した市民参加の方法がとれるように、複数の参加手法を提供する必要がある。

第3に、地域の問題に対して関心の薄い青少年層に対し、どのような働きかけを行うかというように重要な問題だと言われております。

イギリスの地方自治体レベルでは、積極的に地域の学校と連携して青少年グループを招いての模擬選挙や討論、それから代表者で構成された青少年議会を創設するといような取り組みを実践している自治体もあるそうです。これは、それをやれと言っているんじゃないですよ、例として挙げているんですが、このように地域住民が実際に参加の機会を活用できるシステムが必要という、このアクセス問題というのをクリアしていく姿勢がなければ市民参加は高まらない。意識が高まるのが先か、仕組みをつくって高めていくかということになるんですが、市民参加意識が高まらないと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

本間総務企画部長。〔総務企画部長 本間政一君登壇〕

○総務企画部長(本間政一君)

市民参加については伊藤議員が言われますよう&こ、大変難しい問題だというふうに思っています。やはり地域の盛り上がりがあったり、それぞれのテーマがあったりして、それによって動き方、あるいは働き方が違うんだろうと思っていますが、一方、画一的な仕組みをつくるというのも、なかなか難しいこともあるかなというふうに思っています。

ただ、やはり行政からいろんなものの情報を流したり、あるいは市民の中からもいろんなご提案をいただいたり、そこら辺のキャッチボールをしたり、そういういつでも話せる場をまずつくっていくことが大切なんだろうと思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

概念的にはそうですね。ただ、それを実現するためにいろいろな問題を整理して、計画的にやっていくということが必要だと思います。その中で選択をしていくということだと思うんですが、例えば課題ということですが、行政資源をめぐる課題もありますね。職員や費用等の行政資源が、市民参加を実施するためには必要です。ですから当然ですが、日常的、定型的に処理される事務だとか、地域住民の間で黙示的であっても、大方合意されてる事項に関して市民参加を実施する必要はないと。これに使われる人的、物的資源に見合うだけの重要度の高い課題であるというのを、精査しなきゃいけないということですが、ここには精査し、判断するためにルールが必要だと思います。

6月の一般質問で、市民参加の人づくりについて質問しました。市民参加条例の策定を提案したわけですが、これはなぜ条例が必要かということですが、そこではちょっと言い切らなかったんで、ここでまた話をさせてもらいます。

1に、市民への明確な意思表示ですよ、市民参加を求めていくんだと。2に、やらなければならない仕組みづくり、例えば担当者がかわっても、また大変失礼な言い方ですが、市長さんがかわったとしても、やっていかなければいけないという仕組みをつくるということ。それから3番目に、明確な基準づくりだというふうに思います。

市民参加を促進していくという強い意思があるんなら、何も市民参加条例をつくる必要がないというんじゃないくて、やる気があるからこそ、つくらなければならないということなんですよ。この3つの目的を達成できるんなら、条例以外の手段でもいいわけですよ、ちゃんと市民への明確な意思表示をしていくというようなことも含めて。市民に対して何も宣言しない、明確な基準も明らかにしない、都合が悪ければやらなくて済むというような状況で、やる気が十分だと言っても市民の理解は進まないんじゃないかというように思うわけですよ。

市民の参加意識を高揚できるかどうか、高揚していこうと本気で考えるのであれば、姿勢を明確にして市民に示していくということが、何らかの方法で必要であるというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

本間総務企画部長。〔総務企画部長 本間政一君登壇〕

○総務企画部長(本間政一君)

県内、あるいは国内のいろんな自治体の中でも、これらの条例をつくって、やはり一定の基準、あるいは仕組みをつくって取り組んでいるところがあるわけですが、今までも話をしてきましたように、いろんなやり方があるんだろうと思っていますので、今現在の段階では1つの基準、あるいは枠組みをつくってまでやらなくても、もう少しまだまだ合併して間もないわけでありまして、い

ろんな手法を使う中でいろんな取り組みをしていくことが、今の考えではないかなというふうに思っていますので、やはり一定の条例等、あるいは何か決まりをつくるというところまで踏み込めない段階だというふうに認識をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

そういうことであれば、今後の課題の中に1つ置いて検討していつてもらいたいと思います。そういう時期が熟せば、またそういうことに、取り、組んでいただきたいというふ効こ思います。まちづくり、活性化というのは、一朝一夕にはできません。福田内閣では目立と共生を基本に、希望と安心の国づくりに取り組むということを表明しました。そして構造改革を進める中で生じた地域間の格差の問題については、その実態から目をそらすことなく、政策に工夫を重ね丁寧に対応する。地方再生への構造改革を進めていく考えというのを明らかにしました。そして新たに全閣僚からなる地域活性化統合本部会合と、その下での地域活性化統合事務局を設け、地域の課題に対するさまざまな問題、相談に対し、一元的かつ迅速に対応するとしました。

11月30日に、地方再生戦略の案を発表しております。その中の第3・地方の課題に応じた地方再生への取り組みというところでは、現状と課題として、地方都市はさまざまな経済、社会活動を営む場であり、地域経済の中心として、周辺農山漁村等を含めた地域住民のさまざまな生活ニーズにこたえ得る広域的な拠点として、地域全体を牽引する力を発揮しなければならないとし、地方都市の施策展開の方法としては、地方都市は商業や公共サービス等多様な都市機能がコンパクトに集積し、子供や高齢者を含めた多くの人々にとって暮らしやすい、にぎわいと活力のあるコンパクトシティー(集約型都市構造)へと転換することを通じて、地域経済の中心として地域住民や事業者等による経済活動、社会活動、文化活動が活発に営まれる地域の牽引者の役割を果たすことが期待されるというふうにっております。

この地方再生戦略によりますと、コンパクトシティー化は地方都市の抱える命題というふうにも言えます。ちょっと言い切った言い方をしていますね。糸魚川市の特性に合った集約型都市構造を目指さなければならないということになるようですが、糸魚川市に合ったコンパクトシティー化ということについて、どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

織田企画財政課長。〔総務企画部次長企画財政課長 織田義夫君登壇〕

○総務企画部次長企画財政課長(織田義夫君)

お答えを申し上げます。

コンパクトシティについては、昨年、どなたか議員さんから質問がありまして、部内ではその辺について、その後、研究をしております。

ただ、コンパクトシティにつきましてもいろんな考え方がありまして、例えば市街地に高齢者等が住みやすいようなものを、そこにコンパクトシティをつくるとか、それから逆に、これだけ中山間地が多いところですので、中山間地のある一定のところコンパクトシティの考え方をやって地域づくりをすると、まちづくりをすると、そういうものもあるというふうに聞いております。

そういう点については、今現在、一応都内で勉強中であるというところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

言われるように人口集中型、それから機能集中型とか、その中に本当に主要機能だけを集中するとか、今言われたような高齢者に対する集中化というようにいろいろな形があると思います。今後研究してと言っても、活性化という観点で見ればやっぱり早く活性していかなきゃいけない。

この福田内閣で言ってる構造改革を進める中で生じた地域間格差という問題については、早急に是正されていかなければいけないということですから、地方がやはりそれに対して取り組みをして、国の援助ということだと思えます。研究中だと言われましたが、ぜひ早く方向性を出して対応してもらいたいと思います。

他市町村でのいろんな策への取り組みだということですが、各部署において1つの政策課題を解決しようとするときには、先進事例を調査してその地域に合った、ここで言うと糸魚川市に合った形にアレンジして、そのシステムをつくり上げ、実施するということが当然行われていると思います。

そうしている中で、他市町村で新しい事業がどんどん出てくる。これは後から計画する方が、その先進事例に、また独自の楽をつけ加えて工夫したり、よりよいシステムを求める強い探究心と言いますか気持ちで、新しい発想を生み出して新しい政策ができるということになります。常に全国の情報を収集、分析して、継続的に改善していくというような仕組みづくりが必要だと思えますが、糸魚川市には、このような全国の事例情報を、収集、分析するシステムが、庁内の機能としてありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

本間総務企画部長。〔総務企画部長 本間政一君登壇〕

○総務企画部長(本間政一君)

市の組織の中では、企画財政課がその役割をするんだらうというふうに思っています。それから情報についてはインターネットを見たり、あるいは国からの情報を得るようになっておりますので、それらの中で得たものを、必要であれば関係課の方に連絡をしたりしておりますが、それらの調整をして次のステップに踏み込んでいくというのは、なかなか難しいのが今の現状かなというふうに思っておりますが、やはり今、伊藤議員がおっしゃったよう&いろいろな情報というのは、全国にはすぐれた情報があるわけですので、それが糸魚川の地域に合っているかどうかということを見きわめていかなきゃならんと思ってます。

先ほどコンパクトシティの話もでしたが、やはり糸魚川のように広域なところ、あるいは高齢化がどんどん進むところでは、早くそれらを見きわめながら方向を出さなきゃならんというのは、今、合併後の大きな課題なんだらうと思っておりますので、そのことも踏まえながらいろんな自治体の情報をうまく利用するというのも1つの手法だと思っておりますので、努めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

事例をいろいろと入手して必要と感じたら協議する。それが本当に必要なことであれば、またアレンジして計画を実施していく。不相当であれば、別の方法をまた検討していくというようなことが必要なわけですね。そして総合計画の実施計画で、ローリングの中に生かしていくということが行われていかなければいけない。できれば、これが庁内でシステム的に行われていけば一番いいわけですね、PDCAサイクルにもなるでしょう。そんなことで、また仕組みを考えてもらいたいと思います。

事例のうち1つ、2つ聞きたいんですが、地域活性化事業、これはいろいろやってるからということでしたが、他市町村で実際に行われている事例ですので、今後、今の施策にプラスできるかということ、ぜひ検討してもらいたいと思いますし、シニアパワー活用策では、全国的にシニアパワーの活用というのが非常に取り上げられているところです。

ここで注意したいのは、報酬を伴う就業の形態をとる場合でも、多くの都市で設置されているシルバー人材センターを含めて短期的、臨時的なものが中心なんですね。ここで提案しているものは、どちらかと言うと復職、再登板も応援していくというようなことで、どのような技能を持った人がどこにいるかということをやっていくということで、シルバー人材とちょっと区別して考えていただきたいというふうに思います。これについても、また参考にして検討してください。

それから、先ほどのU、I ターンの問題ですが、これは現にもう筒石では地域でU、I ターン者

の候補者のリストをつくって、そこに対して情報提供をしていくというようなことを、これからや
っていきこうというふうに動いていると聞きました。そこに対して援助していくという制度でして、
これについてはいかがでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

田鹿商工観光課長。〔商工観光課長 田鹿茂樹君登壇〕

○商工観光課長(田鹿茂樹君)

お答え申し上げます。

U、I、Jも含めまして、我々としましてはUターン、そういう希望者に関しまして求人説明会
等を実施しております。それに登録された方につきましては、糸魚川市の情報並びに就業に関する
情報を企業面談会の開催のご案内と同時に発送させていただいております。これを我々としては少
しでもふやしていきたいという考え方でありますし、ハローワーク糸魚川の方にもそういう登録者
の方がいらっしゃいますので、ハローワーク糸魚川の皆さんと協力しながら市内の情報提供に努め
てまいりたいというふうに考えております。

○17番(伊藤文樺君)

筒石みたいな地域特有の事例についてどうかと聞いたんです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

田鹿商工観光課長。〔商工観光課長 田鹿茂樹君登壇〕

○商工観光課長(田鹿茂樹君)

特に地域特有ということではございませんが、我々としては少しでも登録者に対して、市の情報
提供をしていくという考え方であります。

大変失礼をいたしました。我々は今、商工観光で担当している部分しかお話できませんでしたけ
れども、逆に地域でそういう情報を出していきたいというようなことがございましたら、総務課と
もまた協議しながらご支援を申し上げたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(五十嵐健一郎君)

伊藤議員。

○17番(伊藤文博君)

最後にPRの方、新潟県では水泳のシドニーオリンピック銀メダリストの中村真衣さんを元気大使に任命しました。市出身でいろんな著名な方がいらっしゃいますので、任命することで、またご本人の自覚も変わるということもあると思います。よろしくお願いします。

終わります。

○議長(五十嵐健一郎君)

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

関連質問なしと認めます。

2時5分まで暫時休憩いたします。